

伊勢志摩サミット関連事業について

伊勢志摩サミットの開催を契機に、三重の子どもたちにグローバルな視野を持って行動する力を育むため、ジュニア・サミットへの参画や、授業等での活用など、国際理解の促進や郷土学習の取組を進めてきました。

今後、これらの経験や成果を明日につないでいくため、グローバル教育の推進、グローバル人材の育成などに取り組んでいきます。

1 「2016年ジュニア・サミット in 三重」(外務省主催) [主会場：桑名市]

4月22日(金)	開会式、会議
23日(土)	会議、討議に資する視察、交流行事
24日(日)	会議
25日(月)	県内分散型体験・交流行事
26日(火)	会議、三重県送別行事、東京に移動
27日(水)	政府首脳に成果文書提出
28日(木)	送別レセプション、都内視察

(1) 日本代表チームとしての参加

- 外務省から、日本代表4名(男女各2名)を三重県内から選出するよう依頼があり、関係部局協力のもと、公募(応募者43名)のうえ選考

- ・稲葉^{いなば}陽樹^{はるき} 三重県立津高等学校 3年生 男子 津市在住
- ・加藤^{かとう}杏弥^{あみ} 三重県立川越高等学校 3年生 女子 四日市市在住
- ・上堀内^{かみほりうち}陸王^{りくおう} 私立東海高等学校(愛知県) 2年生 男子 桑名市在住
- ・藤山^{ふじやま}春衣^{はるい} 三重県立四日市高等学校 3年生 女子 四日市市在住

- 4月のジュニア・サミットに向けて事前研修(計7回)を実施

(2) 討議に資する視察への対応(4月23日)

- 各国代表参加者が、討議[テーマ「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」]に資する視察を実施
- 視察先の一つ「四日市公害と環境未来館」において、地元高校生(9名)が英語を使って積極的に案内・交流

(3) 県内分散型体験・交流行事(4月25日)

- 各国代表参加者が、県内4コースに分散して、三重の美しい自然や豊かな伝統・文化などを体験・体感し、県民との交流を深める体験・交流を実施
- 県内高校生(各コース7名)が英語を使って積極的に案内・交流
- このうち多気町では、相可高校の生徒による「まごの店」での昼食提供と、特別支援学校玉城わかば学園の生徒による太鼓演奏により歓迎

(4) おもてなし

- 県内の農業高校及び農業系の学科を有する高校計6校において、おもてなしのための飾花に使用する花・プランター・スタンド花を製作
- 県立特別支援学校4校において、ジュニア・サミット参加者及び関係者が使用する「名札ストラップ（伊賀組紐）」と「マイ箸袋（さをり織り）」を製作

2 授業での学習

(1) 「イチからわかる！サミット塾」(外務省主催、一部県民会議共催)

- 子どもたちがサミット開催を契機に外交への関心を高めるとともに、国際理解を深めるよう、外務省職員による、サミットの趣旨・内容・歴史や、異文化コミュニケーションや国際交流の秘訣などを学ぶ授業を実施
→ 小中学校 21校、高校 8校

(2) 国際理解・国際交流プログラム(県民会議事業～国際交流財団に委託)

- 子どもたちがサミット参加国についての理解を深めるよう、サミット参加国出身の在住外国人や留学生などを講師に招き、各国の料理や遊び、スポーツなどを実際に体験しながら学ぶプログラムを実施
→ 幼稚園・保育所 22園・所(25回)、小中学校 28校(44回)、高校 6校(7回)、特別支援学校 3校(5回)、その他 10団体(10回)

※平成 28 年度実施(予定を含む)

→小中学校 16校(25回)、高校 1校(1回)、特別支援学校 4校(4回)

3 サミット給食

- 子どもたちが外国の食文化や世界について興味や関心をもち、サミットへの理解を深めるよう、サミット参加国の特色ある料理による「伊勢志摩サミット給食」を実施

→ 県内の全市町教育委員会及び県立特別支援学校

小中学校(全 29 市町) 229 回、県立特別支援学校(11 校) 63 回
計 292 回実施(予定を含む。)

- 実施にあたっては、栄養教諭等からなる「伊勢志摩サミット給食レシピ作成委員会」において参考レシピ(22 種)を作成

4 子どもふるさとサミット(県民会議事業)

郷土学習・国際理解学習・環境学習の成果等について発表・交流を行う「子どもふるさとサミット」を開催

(1) 趣旨

伊勢志摩サミットを契機に、異文化に対する理解を深め、三重で育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子どもの育成を図る。

(2) 開催日・場所

5月14日(土) 伊勢市生涯学習センター

(3) 参加者

県内の小中学校の児童生徒ほか(計430名:うち小中学生180名)

(4) 参加市町(14市1町)

津市、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、名張市、尾鷲市、
亀山市、鳥羽市、熊野市、いなべ市、志摩市、伊賀市、南伊勢町

(5) 内容

▶ 郷土・国際理解・環境学習や伝統芸能等の発表・資料展示

三重県の特産物や自然環境、海外での体験活動などの郷土・国際理解学習発表及び磯部太鼓、木遣唄、子ども唐人といった伝統芸能発表を日本語や英語により実施

▶ サミット参加国に関する各校の取組のパネル展示

学校での郷土・国際理解による取組についてパネル展示の形で発表

▶ 意見交流、アピール文作成、アピール宣言

参加児童生徒が18グループに分かれ、地域の産業、他国とのつながり、環境をテーマに意見交流を実施。交流した意見をもとに、実行委員(中学生)を中心にアピール宣言を作成し、県内小中学生に向けて発信

5 三重の高校生サミット(県民会議事業)

県内の高校生等とジュニア・サミット参加者が、ジュニア・サミットのテーマ等に関する意見交換等を実施する「三重の高校生サミット」を開催

(1) 趣旨

グローバル社会において求められる3つの力(「主体性」「共育力」「語学力」)の育成とコミュニケーション能力の向上につなげる。

(2) 開催・場所

6月5日(日) 百五銀行丸之内本部棟

12日(日) 三重県自治会館

(3) 参加者

高校生ほか(延べ148名)

「ジュニア・サミット」日本代表、同体験・交流行事参加者、
国際地学オリンピック生徒実行委員、大学生、
県外のサミット関連事業に参加した高校生

(4) 内容

テーマ:「次世代の地球に対する若者の提言」

<第1部> 「ジュニア・サミット」日本代表及び同体験・交流行事参加者による報告、交流会、ワークショップ等

・「ジュニア・サミット」及び体験・交流行事参加者から、「問題解決に向けて積極性と行動力、教養が大事」、「日本のことをよく知ることが

必要」等の体験が報告され、その成果を共有

＜第2部＞ テーマに関するディスカッション及び提言の作成・発表

- ・テーマに基づいた提言づくりに取り組み、「地球温暖化防止に向けて、再生紙のノートやエコパックを使う」、「世代を超えて共生するために、地域のイベント等に積極的に参加する」等の提言を発表
- ・「青少年外相会合広島」に参加した高校生からは、「世界に向けて主張するために英語を学ぶことが必要」、「相互関係を築くために他国のことを知ることが重要」等の体験を報告

6 伊勢志摩サミット公式行事における活動

(1) G7首脳伊勢神宮訪問時における植樹のお手伝い

伊勢市、志摩市、鳥羽市、南伊勢町、大紀町、玉城町、度会町の小学生 20 名が植樹をお手伝い

(2) 配偶者プログラムにおけるおもてなし

①総理夫人主催昼食会

県立相可高等学校の食物調理科の生徒等（11名）が、昼食会において三重県産の食材を豊富に用いた食事を提供しておもてなし

・日時・場所：5月26日（木） 伊勢市内

②伊勢音頭保存会・「伊勢っ子」との踊りによる交流

伊勢市内の有志児童「伊勢っ子」が伊勢音頭保存会とともに交流

③植樹サポート

志摩市立神明小学校児童9名が植樹をサポート

④国際メディアセンター（IMC）視察

伊勢市立四郷小学校の児童約50名が障がい者等とのパラスポーツを体験

7 その他関連事業における活動

(1) ベトナム閣僚による松阪市訪問

松阪第一小学校の児童70名がお出迎え

(2) 外国語案内ボランティア

IMCや県内主要駅等に設置された11カ所のインフォメーションでの活動に加え、配偶者プログラム等、その他のサミット関連事業で活動した外国語案内ボランティア300名のうち、高校生約20名が採用され案内に従事

8 その他

(1) ふるさと通信「伊勢志摩編」の配付

- 子どもたちが、サミット開催を契機に伊勢志摩の魅力を再認識し、県内外の人たちに伝えることができるよう、「ふるさと通信V o l . 4（伊勢志摩編）」（日本語版・英語版）を作成
- 県内国・公・私立の小学校（4～6年生）、中学校、高校、特別支援学校

(小学部4年生以上)の全児童生徒(約14万人)に配付

(2) 三重の文化財の発信(県民会議事業)

- ▶ サミット会場等において、海外メディアをターゲットに、海女漁など三重県の魅力ある文化財を英語版リーフレットや動画等により広く発信

▶

(3) 国際メディアセンター(IMC)ガイドツアー

- ▶ 伊勢志摩サミット取材する国内・海外報道関係者のために設置される総合的な取材拠点であるIMCを見学できるガイドツアーが企画されたことから、県内小中高特別支援学校の児童生徒及び「子どもふるさとサミット」や「三重の高校生サミット」の参加者に周知

① 県内小中高特別支援学校の児童生徒対象のガイドツアー

期間：5月30日(月)～6月10日(金)(平日)

参加者：2,235名(小中学校27校、高校4校、特別支援学校2校)

② 子どもふるさとサミット及び三重の高校生サミット参加者対象のガイドツアー

期間：6月4日(土)午前

参加者：103名(保護者等を含む。)

(4) 英字新聞制作

- ▶ 宇治山田商業高等学校のE S S (English Speaking Society)部が伊勢志摩サミット開催にあわせて、三重の魅力を世界へ向かって発信する英字新聞を作成

9 今後の取組

(1) 三重県立高等学校生徒の海外研修旅行

高校生の国際的視野を広げるとともに、海外留学への関心を高め、将来グローバルな舞台で活躍する人材を育成するため、海外における産業現場の視察や企業体験を実施

期間：7月25日(月)～7月29日(金)

研修地：シンガポールおよびマレーシア

参加者：10名

(2) 第10回国際地学オリンピック日本大会

今年度は、7つある科学オリンピックの一つで、毎年開催される高校生のための国際地学オリンピック日本大会が本県で開催される。この機会を捉えて、県内の高校生で組織する生徒実行委員会の生徒60名が世界から集まる高校生と英語を交えて交流を深める予定

8月20日(土)～8月28日(日)に三重大学を会場に開催

(3) 高校生英語キャンプ

英語コミュニケーション能力やチームワーク力の向上を図るため、期間中の使用言語を英語に限ったキャンプを実施

期間：8月21日（日）～8月23日（火）

参加者：高校生約50名（予定）

(4) 小・中学生英語キャンプ

英語による活動を通じて、英語コミュニケーション能力の向上やチャレンジ精神、チームワーク力の育成を図ることを目的に実施

期間：小学生 12月27日（火）（日帰り）

中学生 12月26日（月）～27日（火）（1泊2日）

参加者：小学校5・6年生、中学生 約70名（予定）

(5) 中学生からの提案・発信

中学生が、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持ち、主体的にコミュニケーションを図りつつ課題を解決する態度や自分の考えや意見を積極的に社会に発信する力を育むことを目的に、中学生が主体的に課題の解決に向けて取り組んだ事例を募集。子どもふるさとサミット特別賞を予定

募集期間：6月6日（月）～9月30日（金）

(6) 郷土三重を英語で発信！ワン・ペーパー・コンテスト

中学生が、郷土への愛着と誇りを持ち、異なる文化・伝統に立脚する人々と共生する態度を育むとともに、「郷土三重」についての学習を深め、英語で積極的に対外的に発信できる力を育むことを目的に、「郷土三重」の魅力について英語でまとめたワン・ペーパー（1枚紙）を募集

募集期間：6月6日（月）～9月30日（金）

(7) 国際理解・国際交流プログラム（実施中）

子どもたちがサミット参加国についての理解を深めるよう、サミット参加国出身の在住外国人や留学生などを講師に招き、各国の料理や遊び、スポーツなどを実際に体験しながら学ぶプログラムを平成27年度に引き続き実施中

※平成28年度実施（予定を含む）

→小中学校16校（25回）、高校1校（1回）、特別支援学校4校（4回）

(8) 大学生サミット in 三重（仮称）

サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内大学生や留学生と共にサミットに関するテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催

日程：8月31日（木）～9月3日（土）

(9) 平成30年度全国高等学校総合体育大会

伊勢志摩サミットでのおもてなしを生かした取組を検討